

鳥取県感染症対策センター(県版CDC) キックオフミーティング

- 日時: 令和5年5月8日(月)午後4時10分から
- 場所: 鳥取県庁災害対策本部室(第2庁舎3階)
- 出席: 知事、福祉保健部長、
感染症対策局長、健康医療局長
感染症専門監: 鳥取大学医学部 千酌教授
衛生環境研究所長
(テレビ会議参加)
感染症専門監: 鳥取大学医学部 尾崎教授
鳥取市保健所長、倉吉保健所長、米子保健所長
- 内容:
 - (1) 県版CDCの運営について
 - (2) 新型コロナウイルス感染症への対応について
 - (3) その他

鳥取県感染症対策センター(県版CDC)の概要

新型コロナウイルス感染症のパンデミックの経験を踏まえ、「**鳥取県感染症対策センター**」を設置し、平時から「情報収集」、「調査分析」、「情報発信」を行うとともに、有事の際は鳥取県感染症対策本部の事務局として、情報収集、調査分析等のみならず、一元的に感染症対策を行う。

「鳥取県感染症対策センター」の体制

所長: 感染症対策局長
副所長: 衛生環境研究所長、鳥取市・倉吉・米子保健所長
感染症専門監: 鳥取大学医学部 千酌教授・尾崎教授 (非常勤職員として配置)

< 関係部局 >

- 感染症対策局** ・事務局業務、会議開催等の調整、感染症対策全般
- 健康医療局** ・医療体制、院内感染制御、医薬品供給 等
- 衛生環境研究所** ・国内外の感染情報収集・分析 等
- 倉吉・米子保健所** **鳥取市保健所** ・疫学調査、情報収集・分析 等

< 県庁外の連携・協力機関 >

鳥取県医師会
鳥取県東部・中部・西部医師会

鳥取県看護協会

鳥取県薬剤師会

鳥取大学医学部附属病院高次感染症センター

学識経験者(鳥取大学医学部等)

「鳥取県感染症対策センター」の機能

平時

- 「情報収集」・医療機関等から感染情報収集 等
- 「分析研究」・感染症の疫学的情報の分析 等
- 「情報発信」・発生動向・対策情報の発信
- 「人材育成」・感染症対策人材の育成・確保 等

即時切替

有事

※「鳥取県感染症対策本部(本部長:知事)」の事務局として機能

- 「危機管理対応」・医療提供体制確保、クラスター対策 等
- 「調査分析」・調査分析、シミュレーション
- 「情報収集発信」・感染情報収集、県民への感染対策等の周知

5月8日以降の新型コロナウイルス感染症対策

5類移行後は、新設する鳥取県感染症対策センター(鳥取県版CDC)を中心として、国内外の新型コロナウイルス感染症の感染動向、変異株の発生状況、医療機関のひっ迫状況などの情報を収集・分析し、9波の波を早期にとらえ、県民の健康・命を守る体制を早期に構築する。

鳥取県感染症対策センター(県版CDC)

<感染情報>

- 新規陽性者数
- 感染推移
- 年代別感染者
- クラスタ発生状況
- 変異株発生情報

<医療ひっ迫情報>

- 確保病床使用率
- 入院者数
- 医療機関での感染者状況

<流行状況の分析>

- 感染動向の分析(感染症対策局、保健所)
- クラスタ対策検討(感染症対策局)
- 鳥取県版コロナ警報など新たな指標の検討(感染症対策局)
- 新たな変異株の分析(衛生環境研究所)

<医療ひっ迫への対策検討>

- (感染症対策局、健康医療局)
- コロナ病床追加確保の検討
- 外来ひっ迫の対応検討
- 医療ニーズの把握(困難事案検討、防護具手配等)

分析・対策検討への参画

感染症専門監(千酌教授・尾崎教授)

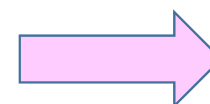
対策の実施

感染症情報の公表

- ※感染情報(週報)
- ※クラスタ状況(都度)
- ※コロナ警報(状況に応じ)

県民への感染対策の
お願い

感染状況に応じた
医療提供体制の整備
※病床の確保



連携
協力
県医師会
地区医師会
看護協会
薬剤師会

県版CDCの運営について

【今後の進め方(案)】

○ 開催

- ・ 定例会議(月1回)
- ・ 臨時会議(随時) 感染急拡大時等は定例会議に加え毎週開催を目的

○ 協議内容

- ・ 各種感染症の発生状況や感染動向の分析調査
- ・ 県民等に対する情報発信についての検討
- ・ 感染急拡大時等には、感染拡大防止・医療提供等の対応方針を検討

※協議参集範囲:感染症対策局(事務局)、衛生環境研究所、保健所、感染症専門監
さらに必要に応じて健康医療局、学識経験者

【当面の予定】

○ COVID-19関連

- ・ 新規感染者数の公表(詳報分)に係る**感染症専門監によるコメント監修**
- ・ 国内外の感染動向、変異株の発生状況、医療機関のひっ迫状況などの情報を収集・分析し、**県民への注意喚起方法やメッセージ等**を検討

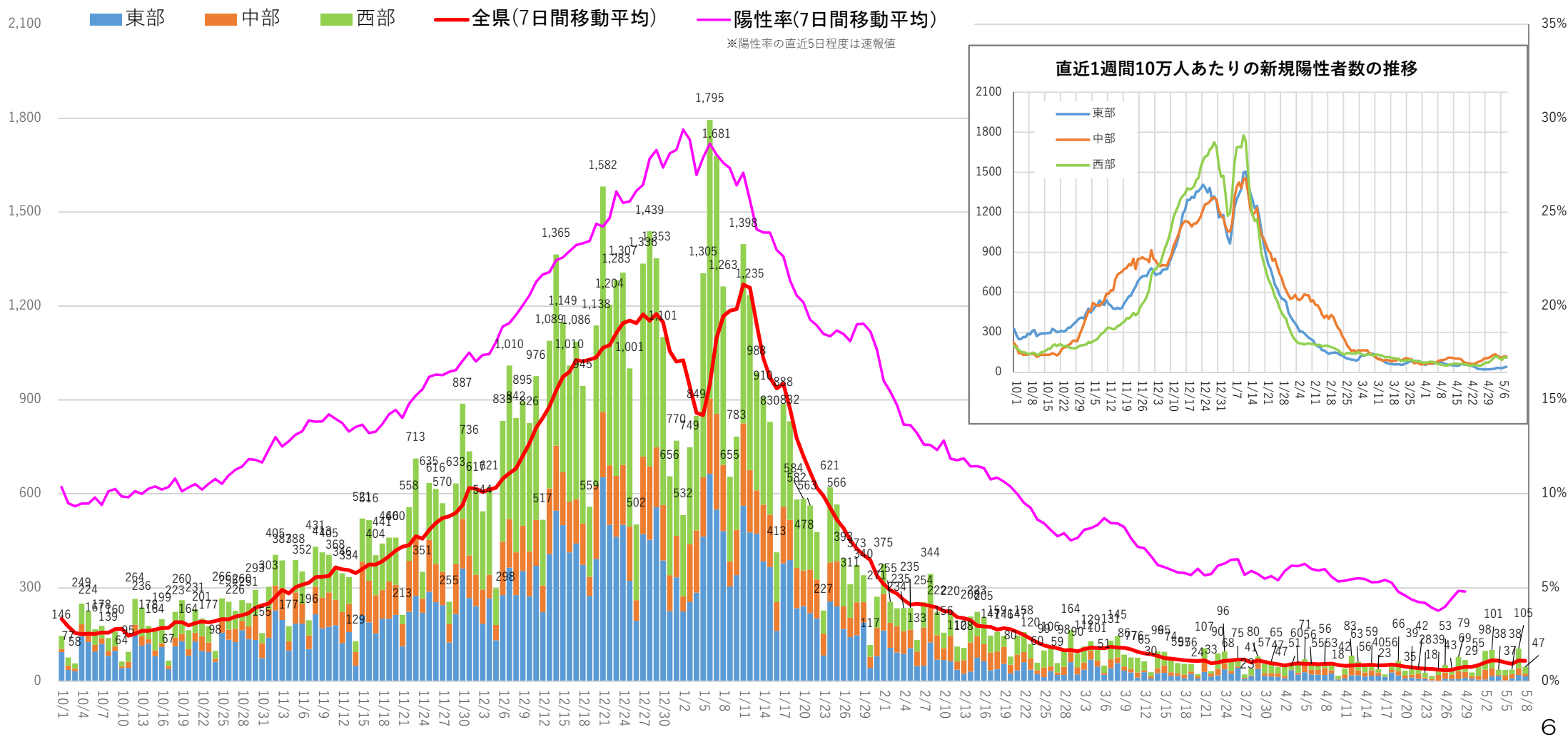
○ その他、注視が必要な感染症の発生動向について情報共有・対応協議

県版CDCの具体的実施内容(案)

区分	主な実施内容
情報収集	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関からの感染症患者の発生動向の把握(全数・定点) ・病原体情報の収集、国内外の感染情報の収集(随時) ・大規模集団感染事例等に係る疫学調査
分析研究	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症情報・病原体情報の解析 ・病原体のゲノム解析 ・感染症に係る疫学研究、統計解析 ・大学等との共同研究
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症情報の公表(週報・月報) ・感染症事例(単一事例(1類～3类等)、集団発生事例等)の公表 ・注意報・警報等の発令・解除 ・県民向け広報(必要な感染対策について、わかり易い啓発・注意喚起を実施)
研修・人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥取大学医学部への寄附講座「臨床感染症学講座」 ・感染症対策に係る研修・人材育成 ・感染症(パンデミック)発生時を想定した訓練等
医療提供体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・生命・健康に重大な影響を与えるおそれのある感染症発生・まん延時に備え、感染症専門監の助言を得ながら医療提供体制の整備を検討・実施 ・鳥取県感染制御地域支援ネットワークによる医療機関の院内感染対策の支援

鳥取県の新型コロナウイルス感染症新規陽性者数の推移等

- 直近1週間の新規陽性者数は、前週よりも増加しており、特に中部、西部が上昇傾向

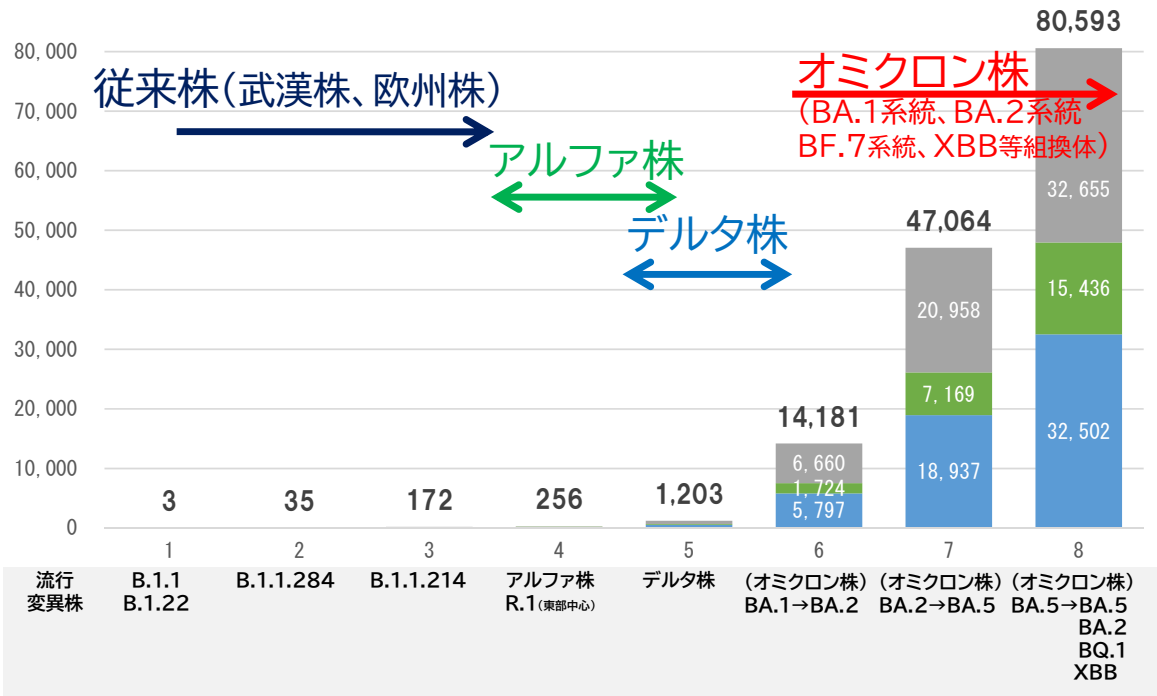


変異株の動向①

- これまで、アルファ、デルタ、オミクロンと、新たな変異株の出現による流行が繰り返されてきた
- 第6波以降はオミクロンが支配的な状況。現在、世界ではXBB.1.5が45.4%を占める(4/27WHO)
- 国内では、今後、感染者数増加の優位性及び免疫逃避能が指摘される「XBB.1.9.1」等が増加すると推定

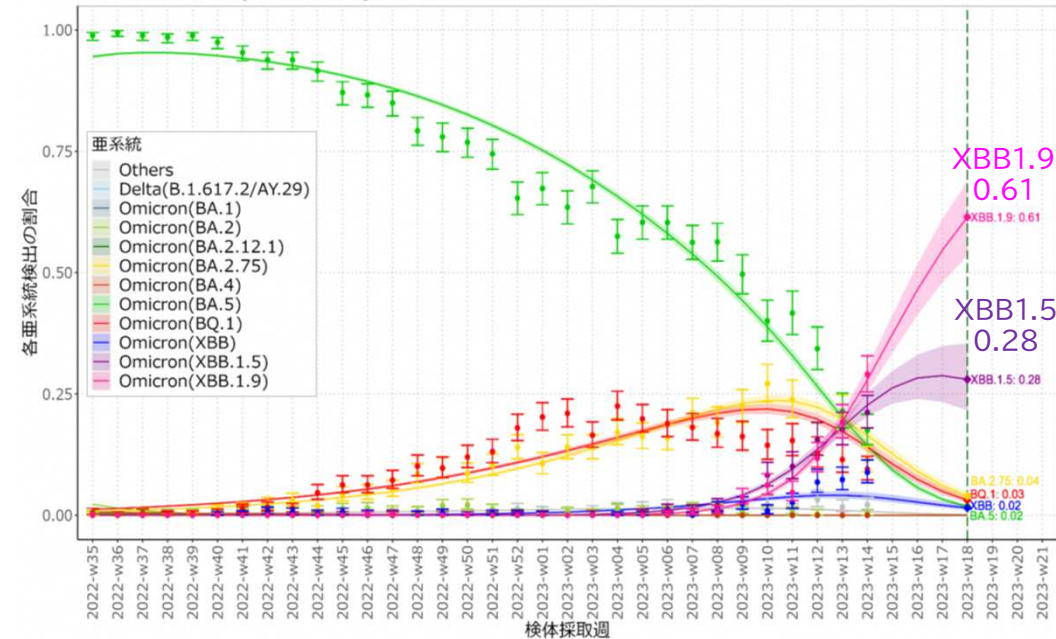
流行期別新規陽性者数(地区別)

■ 東部 ■ 中部 ■ 西部



民間検査機関の検体に基づくゲノムサーベイランスによる系統別検出状況(国立感染症研究所)

検出割合の推定(検体採取週)



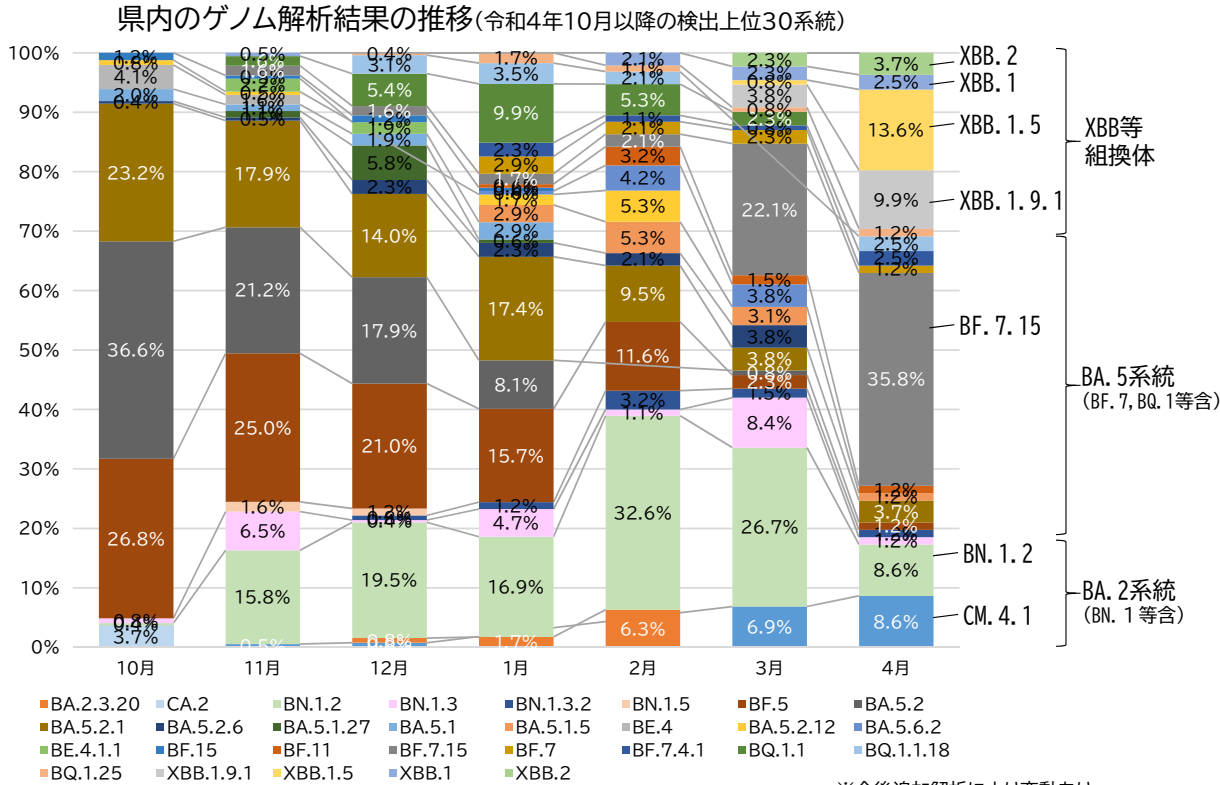
2023-w18=2023年第18週:
2023年5月1日-2023年5月7日

変異株の動向②

■県内は3月に初確認された**XBB.1.9.1**、**XBB.1.5**の増加が顕著

・「XBB.1.9.1」:3月5件→4月8件、「XBB.1.5」:3月1件→4月11件

■従来の**BA.5系統**(BA.5.2、BA.5.2.1、BF.5等)は減少し、より免疫逃避能があると指摘される**新系統**(**XBB等組換え体**、**BF.7系統**)に置き換わりが進む



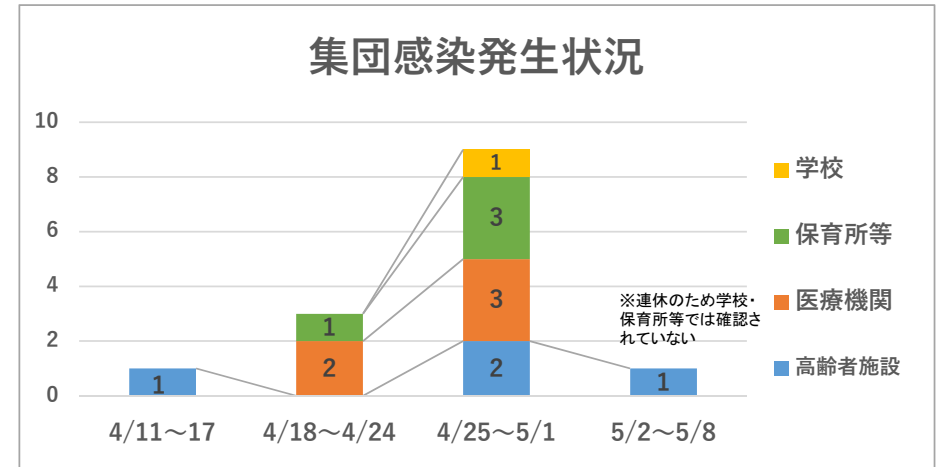
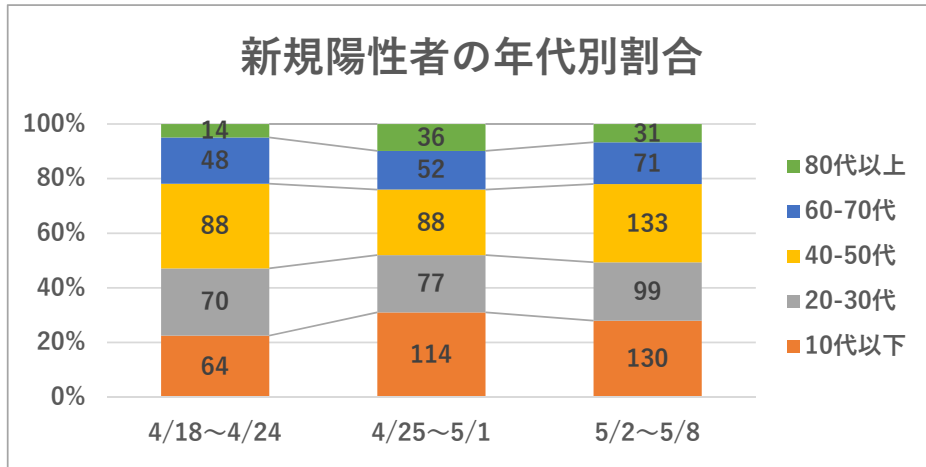
※今後追加解析により変動あり

系統	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	
①BA.2系統	CM.4.1		0.5%	0.8%			6.9%	8.6%
	BA.2.3.20			0.8%	1.7%	6.3%		
②BA.2.75系統	CA.2	3.7%						
	BN.1.2	0.4%	15.8%	19.5%	16.9%	32.6%	26.7%	8.6%
③BN.1系統	BN.1.3	0.8%	6.5%	0.4%	4.7%	1.1%	8.4%	1.2%
	BN.1.3.2			0.8%	1.2%	3.2%	1.5%	1.2%
	BN.1.5		1.6%	1.2%				
④BA.5系統 (BF.7, BQ.1等含)	BF.5	26.8%	25.0%	21.0%	15.7%	11.6%	2.3%	1.2%
	BA.5.2	36.6%	21.2%	17.9%	8.1%		0.8%	
	BA.5.2.1	23.2%	17.9%	14.0%	17.4%	9.5%	3.8%	3.7%
	BA.5.2.6	0.4%	0.5%	2.3%	2.3%	2.1%	3.8%	
	BA.5.1.27		1.1%	5.8%	0.6%			
	BA.5.1	2.0%	1.1%	1.9%	2.9%			
	BA.5.1.5				2.9%	5.3%	3.1%	1.2%
	BE.4	4.1%	1.6%					
	BA.5.2.12	0.8%	0.5%		1.7%	5.3%		
	BA.5.6.2				0.6%	4.2%	3.8%	
⑤BF.7系統	BE.4.1.1		2.2%	1.9%				
	BF.15	1.2%	0.5%	1.2%	0.6%			
	BF.11				0.6%	3.2%	1.5%	1.2%
	BF.7.15		1.6%	1.6%	1.7%	2.1%	22.1%	35.8%
⑥BQ.1系統	BF.7			2.9%	2.1%	2.3%	1.2%	
	BF.7.4.1			2.3%	1.1%	0.8%	2.5%	
	BQ.1.1		1.6%	5.4%	9.9%	5.3%	2.3%	
⑦XBB等 組換え体	BQ.1.1.18			3.1%	3.5%	2.1%		2.5%
	BQ.1.25			0.4%	1.7%	1.1%	0.8%	1.2%
	XBB.1.9.1						3.8%	9.9%
⑧XBB等 組換え体	XBB.1.5					0.8%	13.6%	
	XBB.1		0.5%			2.1%	2.3%	2.5%
	XBB.2						2.3%	3.7%

※各月上位3系統を着色

年代別新規陽性者・集団感染の推移

- 4月中旬から医療機関・保育所での集団感染が確認され始め、その後高齢者施設でも発生し始めた。
- 年代別では、10代以下の増加に続き、40～50代の感染者の割合が増加している。



新型コロナウイルス感染症の直近の感染動向(まとめ)

- 第8波は、4月中旬には収束したが、新規陽性者数は一定数は確認されている状況
- 4月下旬に入り、中部・西部で上昇傾向が見られる。
- 主流の変異株が急激に置き換わる兆候（XBB等組換え体、BF.7系統）が見られ、また新規陽性者数の年代別割合は、10代以下が先行して増加し、次いで40～50代（親世代）が増加傾向
- ➡ これまでの流行期の初期段階と同様な兆候であり、大型連休後に新たな流行（第9波）が始まるおそれがある。

新型コロナの病床確保状況

- 五類移行後も症状の重い患者(原則、中等症Ⅱ以上)が速やかに入院できるよう、経過措置としてコロナ病床を確保
- コロナ病床の使用状況は毎日確認し、病床確保計画のフェーズ判断や医療ひっ迫の動向把握に活用

【5月8日以降の病床確保計画】

フェーズ	東部	中部	西部	合計
3	116床	47床	124床	287床
2	45床	15床	49床	109床
1	27床	11床	29床	67床
【参考】第8波における中等症Ⅱ以上の入院者数の最大値	19人	11人	21人	51人

- ・ 重症化率の増加や第8波を凌ぐ感染爆発による**病床逼迫への備えとしてフェーズ3まで設定**
- ・ **当面はフェーズ2からスタート**し、感染状況、入院医療の状況に応じてフェーズを柔軟に変更していく
- ※確保病床のほか、コロナ患者は全43病院での**受入れへ拡大 → 受入可能病床は600床以上**

【第8波における圏域ごとの最大入院者数】(カッコ内は日付) ※各保健所が収集した情報をもとに事務局で分析・試算したもの


区分	東部	中部	西部	合計	全県域
コロナ病床入院者数	71 (12/12)	26 (1/8)	99 (1/3)	196	186 (12/12)
中等症Ⅱ以上入院者数	19 (1/10)	11 (1/12)	21 (1/15,16)	51	44 (1/12)
コロナ病床外入院者数	90 (12/30)	115 (1/13)	112 (12/31)	317	257 (1/10)
全コロナ患者入院者数	148 (12/30)	136 (1/13)	203 (12/31)	487	438 (1/10)
うちコロナ病床入院者数	58	21	91	170	181

5月8日以降の新型コロナ相談窓口の体制整備

- 発熱等の症状がある方や、コロナ患者の症状悪化時の相談窓口 ➡ **かかりつけ医**
- 自宅での処方薬の受け取りを希望される場合の相談窓口 ➡ **かかりつけ医又はかかりつけ薬局**
- かかりつけ医がないなど相談先に迷う場合の相談窓口として、「**新型コロナウイルス感染症相談・支援センター**」等を設置

相談窓口

新型コロナウイルス感染症相談・支援センター

発熱時等の症状がある時や症状悪化時に、かかりつけ医がない場合の相談		感染対策や療養に関することなど、その他の総合相談	
受付時間	連絡先	受付時間	連絡先
9:00~17:15 ※土日祝日含む	Tel 0120-567-492	平日 8:30~17:15	本庁 Tel0857-26-7799
	Fax 0857-50-1033		鳥取市保健所 Tel0857-30-8555
東部 Tel0857-22-5625	中部・西部 Tel0857-26-8633		倉吉保健所 Tel0858-23-3261
			米子保健所 Tel0859-31-9329
上記の時間以外	【聴覚や発話の障がい等により音声通話が困難な方】 専用の相談フォームで ご相談ください。	とっとりおとな・子ども救急ダイヤル 休日・夜間の症状悪化時の対処法や受診の必要性の判断などの 専門的な相談に対応	
	 相談フォームQRコード	受付時間	連絡先
		平日 19:00~翌8:00 土日祝日 8:00~翌8:00	おとな #7119、子ども #8000

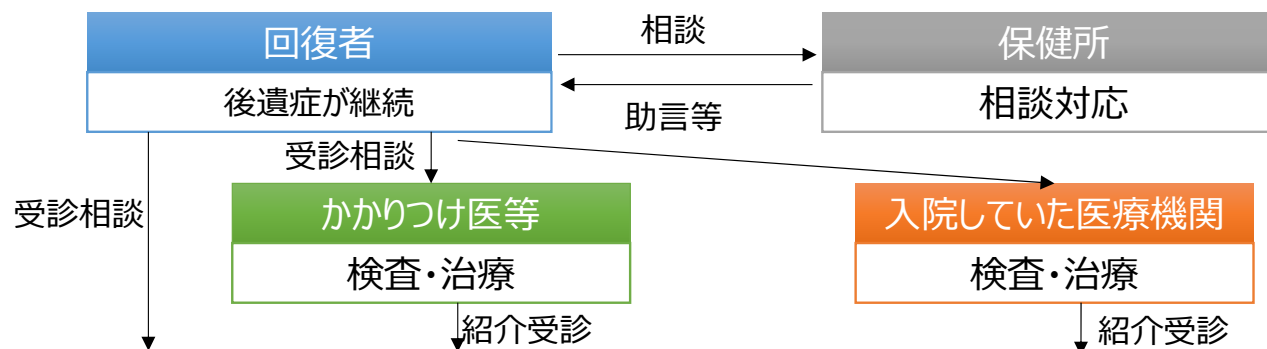
新型コロナの罹患後症状(後遺症)への対応

■新型コロナに感染し回復したあと、疲労感、倦怠感、集中力低下、味覚・嗅覚障害などの罹患後症状(いわゆる後遺症)が長引く方が一定数存在

■保健所・かかりつけ医・地域の医療機関・入院医療機関・専門医療機関への相談対応・医療体制を整備してきたところ

→後遺症に関する情報を収集・分析し、関係機関とも共有して診療等の対応に活かしていくこととしてはどうか。

<後遺症に関する相談対応・医療体制>



専門医療機関

【問い合わせ先】

県立中央病院：総合内科（電話：0857-26-2271）

県立厚生病院：地域連携センター（電話：0858-22-8181）

鳥取大学医学部附属病院：新型コロナウイルス感染症後遺症外来（電話：0859-38-6692）

注）紹介状がない場合、特別の料金（選定療養費）7,700円が必要になります。

※後遺症の原因等は未だ不明な点があり研究途上ですが、専門医療機関では、上記の問い合わせ先を中心に、症状等を踏まえ必要に応じて関係する診療科が連携して診察・治療に対応されます。

新型コロナの医療状況と感染動向に係る今後の情報発信について

- ・ 感染力が非常に高いが重症度が低いオミクロン株による流行が引き続き起きる現状を踏まえると、**新規陽性者数はこれまでの流行期よりも多数の陽性が診断される可能性がある。**
- ➔ 県民に感染対策のレベルアップをお願いするタイミングとしては、**命と健康を守るために必要な医療体制の確保に着目した指標**としてはどうか。

【指標に利用するデータについて】

■医療のひっ迫の状況

- ・ 県が確保する病床(原則、中等症Ⅱ以上)の使用状況
- ・ 全医療機関におけるコロナ入院患者数 など

■新規陽性者数のトレンド

- ・ 定点医療機関による週当たりの新規陽性者数

■集団感染等の発生状況

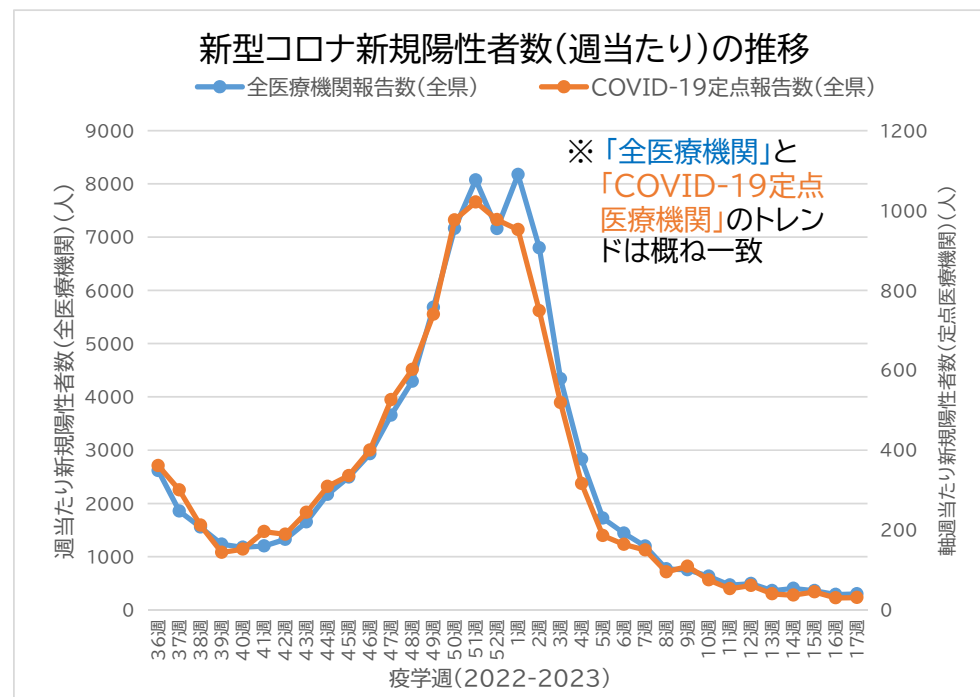
- ・ 社会福祉施設等の集団感染、学校等の休業(都度把握)

■変異株の推移

- ・ 概ね1週間に1回、検査結果が判明

【情報発信の内容】

- 指標データを基に、週に1回、トレンド説明、感染対策レベル(注意報・警報など)を発信してはどうか



<参考> 定点医療機関(29)の内訳

・診療科区分:小児科定点19、内科定点10 ・地区別:東部12、中部6、西部11

感染症対策の研修・訓練等の取組

- 新興感染症や輸入感染症に対する訓練・研修を実施し、対応人材の育成を図ってきたところ
- 新型コロナの発生以降、医療従事者等に対する研修等を継続的に実施し、医療体制の充実・拡充を推進してきたところ

- ➡新型コロナに関して、ウイルス特性等を考慮して**施設の特性に応じた研修を継続**していつてはどうか。
- ➡新興感染症等への初動体制を平時から確保するため、**行政関係者への研修を幅広く実施**(パンデミック時に優先的に対応する県、市町村の専門職等)してはどうか。

<新型コロナに関する研修等の開催事例>

時期	名称	参加者等	内容
R2.2.4	対策本部運営訓練	県関係部局 鳥取市保健所	県内での感染者初確認時の対応訓練
	患者移送等対応訓練	保健所、感染症指定医療機関	個人防護具着脱、移送車による患者移送訓練
R2.2.25	新型コロナ対策研修会	対象:医療機関 講師:千酌教授	臨床像、感染管理、各病院で備えるべき内容
R3.12.9	治療法に関する研修会		重症度に応じた治療薬・治療法の選択
R3.12.20	対面診療に関する研修会		ゾーニング、対面診療時の感染対策、中和抗体薬の使用法
R4.4.11	院内感染対策のための研修会		変異株の状況、エアロゾル感染等の感染経路と感染予防策
R5.4.26	感染対策、治療法研修会		感染防護具着脱、治療薬

時期	名称	参加者等	内容
R4.4.8 ~21	社会福祉施設感染対策研修	対象:社会福祉施設職員 講師:大畑感染管理認定看護師	防護服着脱方法、ゾーニング、クラスター事例を踏まえた対策 など
R4.11.8 ~30 ほか			

<その他感染症に関する研修等の開催事例>

時期	名称	参加者等	内容
毎年 ※新型コロナ発生以前	エボラ出血熱対応訓練	保健所、感染症指定医療機関、消防	個人防護具着脱、患者移送訓練
	新型インフル対策本部運営訓練	県関係部局	流行のステージごとに、関係部局の対応を訓練

最近のサル痘(エムポックス)に係る動向

○2022年5月以降、従前のサル痘流行国への海外渡航歴のないサル痘患者が世界各地で報告されているが、2023年3月時点では世界全体の症例の報告数は減少傾向。

○国内では、2022年7月に1例目の患者が確認され、その後散発的に発生が報告されていたが、2023年に入り患者の報告数が増加。厚生労働省の発表では、新たに4月11日～5月2日に31人が確認され、累計で127人となっている。

→ 東京など関東が感染の中心だったところ、3月以降、西日本への感染の広がりが見られる。(大阪府、兵庫県、徳島県、高知県、香川県、沖縄県)

→ 感染者は全員男性。9割以上は海外渡航歴がなく、国内で感染拡大が起きているとみられ、年代別では、20代～40代が中心。現時点で本県では発生報告なし。

※「鳥取県サル痘相談窓口」(令和4年7月26日設置)には、当初4件の相談(疑い事例ではない)があったものの、9月以降は現在まで相談なし。

○今般の国際的なサル痘の流行については、男性間の性交渉を行う者の間で症例の多くが発生している。

(注:WHO は、現時点では、これらのネットワークを超えた持続的な感染伝播の兆候はないとしている。)

<世界の感染状況>

<WHO地域別の発生状況の推移(2023.2.11時点)>



<WHO 地域別の発生状況> 2022.1~2023.2.13

WHO地域	確定例	死者数
アフリカ地域	1,341	16
アメリカ地域	58,321	70
東地中海地域	82	1
ヨーロッパ地域	25,832	5
東南アジア地域	40	1
西太平洋地域	244	0
計	85,449	93

※WHOは、2023年2月9日にサル痘の4回目のIHR EC(国際保健規則緊急委員会)を開催。「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」について「継続」の見解を勧告。